

## 第1回「ゆめキット工作教室 そして楽しく遊ぼう会」

日 時：平成17年11月23日(水) 1:00~3:30 (午前中準備)

場 所：すずらんホール

売上個数：まんが鏡28個、デコりん14個、つったろう21個

<生徒の報告書：感想より>

- ・自分たちで工作キット教室をやってみて、準備とか、細かい打ち合わせとかできてなかったのも、当日ちゃんとできるか不安でした。でも、当日はみんなそれぞれテキパキと自分の仕事を見つけていけることができていたので、思っていたよりスムーズにできたと思います。
- ・始めから終わりまですべて自分たちでやらなくてはいけなくて大変でした。コンテストの表彰状やメダルも手作りしました。たくさんのチラシを10校の小学校や幼稚園に持って行って、配ってもらったのですが、実際に来てくれた子供たちは50人ほどしかいませんでした。ただチラシを配るだけじゃ来てくれない、もっと宣伝方法を考えなければと思いました。
- ・準備不足でした。当日も予想よりお客の人数が少なかったのに、それでも人手が足らず、隅々まで行き届かなかったです。細かいことを決めていなかったのも、その場の勢いで何とかやり過ごすような状況でした。コンテストの審査も時間がかからないものだと思っていたのですが、甘い考えでした。一つ一つ丁寧に審査しているととても30分では審査できませんでした。しかもエントリーの数が20個未満だったのにもかかわらずです。何回も打ち合わせをして万全の体制で望むことが必要です。心構えも違って来るし、何よりも突然の変化にも対応できると思います。
- ・反省点は、おつりの小銭を用意すべきだったことです。おつりが足りなくてとても困りました。また、売った商品の個数と売上金額を数えるのを忘れていたことです。次回はぜひこの失敗を生かしてください。
- ・後から遅れてきた人が説明についていけなくて、私が教えた。全部終わって帰るときに、その親子がわざわざ私のところに挨拶に来てくれて、とてもうれしかった。この教室は時間を気にしないでいいので、余裕を持ってできた。子供たちもコンテストがあるので、エントリーの締め切り時間ギリギリまで頑張ってくれた。
- ・工作キット教室も終わりに近づいた頃、一人の男の子が「この工作キットって年に1回しかないん？」と聞いてきて、びっくりしたと同時にすごく嬉しかった。「また来たい」って思ってくれたことにすごく感激だった。もっと様々な場面で子供たちと交流が持てたらと思った。反省点は、すごくバタバタしてしまったこと、お釣りを事前に用意できていなくて、お客さんを待たせてしまったこと。初めての経験でいろいろな失敗もしたけど、私にとって、とても良い経験になった。
- ・賞品は3位まで用意していましたが、参加してくれた子供が6人だったので、急遽賞品をばらし、6位まで賞品を作りました。大会の進行はあたふたしてしまいましたが、子供たちはとても喜んでくれました。お客さんが出ていく時、私たちは先に会場を出て、みんなでお礼を言いました。その時も子供たちが私たちにくっついたり、「ありがとー」と声を出して私たちにいってくれたりして、とてもうれしかったです。
- ・販売の難しさを改めて実感しました。自分の視点からではなく、子供の視点から物事を考えなければいけないということです。デコりんの売上は少なかったですが、子供たちの笑顔で自分がやったことの重要さがわかった気がします。

- ・反省点は、進行などをしっかり決めていなかったもので、始まりがあいまいになり、盛り上がりがあったこと。もっと見本品をうまく利用すること。流れが悪くて、何をすればいいのかわかっていなかった。指示もあまり通らなくて、理解している人が少なかった。特定の人が意見を出して企画していたので一人一人の動きがつかめていない。
- ・全体的に準備の時間が少なかったと思う。もっと前から準備の時間と話をつめることが必要だと思う。
- ・「自分たちは売る立場なんだ」という自覚がしっかり持てたと思います。また、販売だけではなく、子供たちと触れあうことができました。折り紙で、財布を作ってくれて、プレゼントしてくれた子がいました。楽しく追いかけてこをしたりして、子供たちのパワーを感じました。帰るときもずっと手を振ってくれた子もいて、やつてよかったと思っています。
- ・見本品を持っていくのを忘れて、当日に見本品を作った。前もって用意しておくべきでした。また、釣り竿を振り回す子が何人かいたので、振り回してはいけないということをもっと説明書に目立つように書いた方がいいと思った。
- ・賞品として駄菓子を買ったのですが、駄菓子屋で買った人がレシートをもらえず、入金伝票を書く際に困りました。レシート（領収書）は必ずもらう。購入の際にはレシートをもらえるかどうか確認すること。これは気をつけよう。
- ・1人のお母さんに来年もこうゆう教室をやってくれたらいいのと言われ、とてもうれしかった。つたろう大会では、みんな真剣になって競い合い、賞品をもらおうとすごい嬉しそうな顔をしていた。今回すずらんホールという大きなところで工作キット教室ができて本当に勉強になったし、自分も楽しむことができてよかったと思う。ただ、もっと自ら積極的に動いたら、もっとよかったと思う。
- ・もう少し対応とか、笑顔でできるようにしないといけないなと思いました。また、予定していた内容と変わったところがあれば、その場ですぐ応じられるようにしないといけないと実感しました。
- ・今までにたくさん工作キット教室を開催しましたが、最初から最後まで自分たちでやるということは、こんなに準備と時間が必要で、とても大変なことなのだとということを実感しました。今回のイベントはこれまでの集大成だと思いました。
- ・今回の開催にあたり、今まで体験させていただいたものとは違い、自分たちが主催者なので、いつもと違った仕事の大変さ、大切さを改めて感じました。自分たちの企画を成功させるために一生懸命働くのは大変ですが、その分、成功に終わったときの達成感を学ぶことができ、本当によかったと思います。
- ・教室に参加していただいたほとんどの親子のみなさんから終了後、「ありがとう」と声をかけていただき、とても嬉しい気持ちと共に充実感があり、良い体験ができたと思いました。
- ・自分たちで「企画する」というのはとても難しく、今まで主催の方がどれだけ細部にわたって手配してくれていたかということがわかりました。企画し開催するということは、たくさんの時間や経費がかかっていることもわかりました。とても勉強になったと思います。
- ・仕事に対する積極性、自分で仕事をさがすということが身についたと思う。誰かに指示をもらい、言われたことをするのはではなく、自分で仕事をさがし、その仕事を責任持ってやりとげることの難しさが身にしみてわかった。一人で難しい仕事であれば、周りを見て、協力を頼む、困っていたら助けてあげるといことも仕事をするうえで必要なことも自然に身についた。
- ・このイベントは、自分たちで何もかも用意しないといけないくて、どうなるのかとても心配だった。今までは先生に助けてもらっていることが多かったから、何とかあったけど、今回は自分たちの主催だから、楽しみ半分、不安でいっぱいだった。工作教室も大会もみんな楽しくやってくれたので、成功だったと思う。これから後輩たちにこのイベントをやってもらいたいし、年々参加者を増やして行って、みんなで考えたおもちゃをたくさんの子供たちに伝えてほしいと思った。